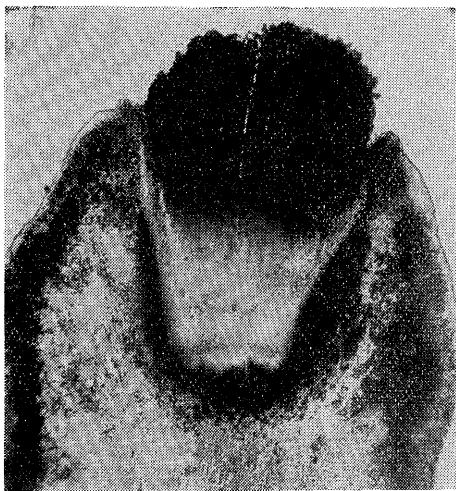


違いがありすべてを一つの属として扱ふのは妥当でない、このことは後報する胚乳形成の機構にも認められる。

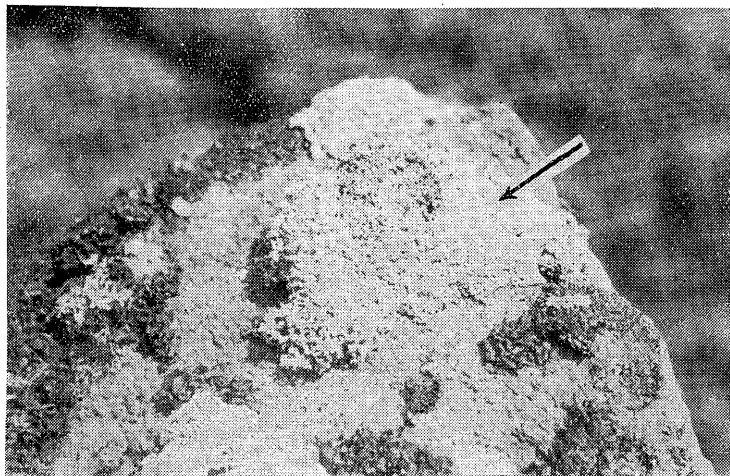
**○本土に於けるカニメゴケ第二の産地** (朝比奈泰彦) Yasuhiko ASAHINA:  
Second locality of *Acrosyphus sphaerophoroides* Lév. in Hondo, Japan.



Vertical section of Apothecium of *Acrosyphus sphaerophoroides*. (Photo. Y. Asahina).

For the second time *A. sphaerophoroides* Lév. was collected on Mt. Ontake (Hida side), ca 2750m.

1952年に黒川遼君<sup>1)</sup>が信州三ツ岳でカニメゴケ発見の先鞭を附けてから本種の本土産出は確定し第二の産地の報告が期待されて居たが本年(1954)夏筆者は富樫誠、黒川遼両君と共に木曾教育会主催の御獄調査団に参加し飛騨口から登山した際飛騨頂上から約100米下のハイマツ群落上に突出する岩塊上(標高約2750米)で良好なカニメゴケの標本を採集した。今回の獲物2個の内一つは大きき8×7cm、他の一つは5×6cm何れも筆者の乾園中に納めた。



Natural habit of *A. sphaerophoroides* Lév. on Mt. Ontake, Hondo. (Phot. M. Togashi).

1) J. J. B., 28:96